

リフレクションシートの記述数による体育授業省察能力について ～教師行動に着目して～

鶴岡 真由美 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)
指導教員 南島 永衣子

キーワード：体育模擬授業、リフレクションシート、省察能力

1. 緒言

大学の教員養成カリキュラムの一環として行われた模擬授業実践後に、評価できる点や改善すべき点について記述する「リフレクションシート」を導入している事例が認められる(藤田ら、2007)。リフレクションシートとは、模擬授業を反省的に振り返り、記入するシートのことである。

本研究者が在学するB大学においても、リフレクションシートを導入した模擬授業が展開されている。三好(2010)は、リフレクションシートを用いた模擬授業省察能力について研究を行った。その省察内容は、「学習内容」「環境」「教師行動」の3つの上位カテゴリーとそれに追従する下位カテゴリーから分析を行っている。その中でも特に、模擬授業受講生の全体的な特徴として、省察の中心的内容が「教師行動」に関するものであると明らかにしている。さらに、全8回の模擬授業を前半4回、後半4回に分けてリフレクションシートの記述数を分析した。その結果、前半から後半にかけて全体的に統計的に有意な増加は見られたものの、下位カテゴリーにおいては、有意な差が現れないことを示した。

ところで、B大学では、模擬授業省察能力に関する研究において、3回生以上が対象の中心であった。

そこで、本研究では、模擬授業を初めて経験する2回生を対象に、模擬授業における体育授業省察能力の変容について、リフレクションシートの事実・評価・改善策の各記述数から明らかにすることを目的とした。その際、先行研究において省察の中心的内容が教師行動であったことから、本研究では「教師行動」に焦点化する。

2. 研究方法

2009年度後期(9月29日～1月26日)開講の「学校スポーツの理論と実際」を対象授業とし、B大学の保健体育教師を目指す2年生90名を対象者とした。

対象者が記入・提出したリフレクションシートを基に、全10回の模擬授業を前半5回後半4回に分けて分析を行った。その際、SPSS13.0J forWindowsを使用し、対応のないt検定を行った。

3. 結果と考察

本研究を通して、以下の3点が明らかになった。

①教師行動の全体的な特徴として、省察の中心的内容は、「相互作用行動」カテゴリーであった。

②模擬授業が進行するにつれて、一般的な記述が具体的な記述へと記述内容の変容がみられた。それは特に、評価記述数において有意に高い値を示した。つまり、模擬授業では、体育授業省察能力を高めることが可能であることを示唆した。

③模擬授業では、改善策記述数において統計的に有意な差はみられなかった。理論と実際では、まず指導案の計画通りに模擬授業を行うことを第1においていた。そのため、改善策を記述することは困難であったと考えられる。

リフレクションシートの記述数並びに、その内容の分析を通し、体育授業省察能力の変容を明らかにすることを試みた。その結果、模擬授業及びリフレクションの記入によって、学生達は、省察能力を高めることができることが示唆された。また、今後の課題として、省察内容と模擬授業の具体的状況の関連性の検討や省察内容の妥当性の検討が必要である。